

## プレスリリース

平成 15 年 8 月 6 日

水産庁

独立行政法人水産総合研究センター

東北区水産研究所

### 平成 15 年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
東北区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し（2003年8月中旬～12月）

## 漁期を通じて大型魚主体の漁獲となる

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業ホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。  
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間  
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1  
電話：03-3502-8111(内線7376)、ファックス：03-3592-0759  
直通電話：03-3501-5098  
電子メール：toru\_hazama@nm.maff.go.jp  
水産総合研究センター東北区研究所企画連絡室  
住所：〒985-0001 塩竈市新浜町3-27-5  
電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250  
電子メール：kiren@myg.affrc.go.jp

## 参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	(社)漁業情報サービスセンター
北海道立網走水産試験場	水産庁漁場資源課
岩手県水産技術センター	独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所
宮城県水産研究開発センター	東北区水産研究所 中央水産研究所
宮城県産業経済部	
福島県水産試験場	
茨城県水産試験場	
千葉県水産研究センター	
静岡県水産試験場	
三重県水産技術センター	

## サンマ北西太平洋群

予報期間 2003(平成15)年8月中旬～12月  
対象海域 北西太平洋(道東沖から常磐沖)  
対象漁業 サンマ棒受網  
魚体 魚体の大きさは肉体長(体長)で表示し、便宜的に大型魚(29cm以上)、中型魚(24～29cm)および小型魚(20～24cm)と区分した。

### 予報

- (1)来遊量：来遊量は昨年を上回る。
- (2)漁期・漁場：大型船出漁後の漁場は、道東から色丹島沖に形成されるが漁場は分散する。  
三陸沖の漁場は例年より早い9月中旬に形成される。
- (3)魚体：漁期当初から大型魚の割合が高く、漁期を通じて大型魚主体の漁獲となる。

### 説明

サンマの水揚量は、1990年以降毎年25万トンを超え安定していたが、1998年には水揚量が14.0万トンと前年比で約半分に落ち込み、1999年は13.5万トン、2000年は21.2万トンと3年連続して近年では低い水準にとどまっていた。しかし、2001年の水揚量は26.6万トンでやや回復したものの2002年は20.5万トンと再び減少し、2000年の値をやや下回った。このように、北西太平洋におけるサンマの資源状態は、変動が大きい時期にあると考えられている。

本予報は、関係機関が本年の8月までに行った、成魚の資源量推定を目的とした中層トロールおよび流し網調査、仔稚魚の加入の状況を把握するための稚魚ネット等による加入量調査および海洋観測の結果に基づいて行った。また、7月8日から出漁している10トン未満のサンマ漁船の情報等も参考としている。

#### (1)来遊量

本年の6月から茨城県水産試験場いばらき丸、北海道立釧路水産試験場北辰丸および東北区水産研究所(若鷹丸、北海道教育庁北鳳丸(用船)、山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールおよび流し網を用いて調査を行った結果、東経155度より沿岸側にはサンマがきわめて少ないものの、沖合側には濃密な魚群が確認された。3年前から中層トロール調査が行われている東経162度以西では、推定資源重量は最高の164万トン(前年比131.0%)となった。東経162度以西に分布する魚群のうち、どれくらいの割合の魚群が漁場に来遊するかは明らかになっていないが、順調に魚群が漁場に来遊すれば、推定資源重量の前年比から昨年を上回る魚群の来遊が見込まれる。

北海道立釧路水産試験場の北辰丸によって7月中旬に行われた調査では、東北区水産研究所の調査に比べて沿岸よりの調査点でもまとまった漁獲が見られ、東経 151 度 30 分～162 度 30 分の調査海域において、昨年と同調査を上回るサンマが漁獲された。一方、7月8日から道東沖で操業を開始した 10 トン未満船も、当初は漁況が不振であったが7月中旬以降好調な漁獲が続き、7月30日までの道東主要3港の水揚量は過去5年では最高を記録している。6月の調査結果では東経 155 度以西でのサンマの漁獲がほとんどなかったことから、沿岸を北上した魚群が非常に少なかったと考えられる。従って、北辰丸が東経 155 度以西で漁獲したサンマや、10 トン未満の漁船が漁獲しているサンマは、6月の調査で 155 度以東に分布していた魚群の一部が道東から千島列島沖へ到達しているものと考えられる。

以上のように、東経 162 度以西のサンマの資源量は昨年より多く、西への移動が確認されていることから、来遊量は昨年を上回ると考えられる。

## (2)漁期・漁場

(1)の来遊量の項で述べたとおり、資源量は多くその魚群の一部は道東沖まで達していると考えられる。このため、初期漁場も引き続き道東～色丹島沖合に形成され、道東の漁場には沖合からの魚群の加入が続くと考えられる。また、道東沿岸は全般に水温の勾配がなだらかであることや魚群が広く分布することから、漁場は分散すると考えられる。

また、現在釧路南東沖と金華山沖に暖水塊があるが、釧路沖の暖水塊はすでに親潮水に取り込まれているため今後勢力が強くなるとは考えられず、金華山沖の暖水塊も沿岸から離れている。また、親潮第1分枝の張り出しや黒潮暖水の位置が南偏していることから、三陸沖に魚群が入りやすい海洋環境となっている。このため、三陸沖(おおむね北緯41度以南)における初漁場は、平年より早めの9月中旬に形成されると予測される。

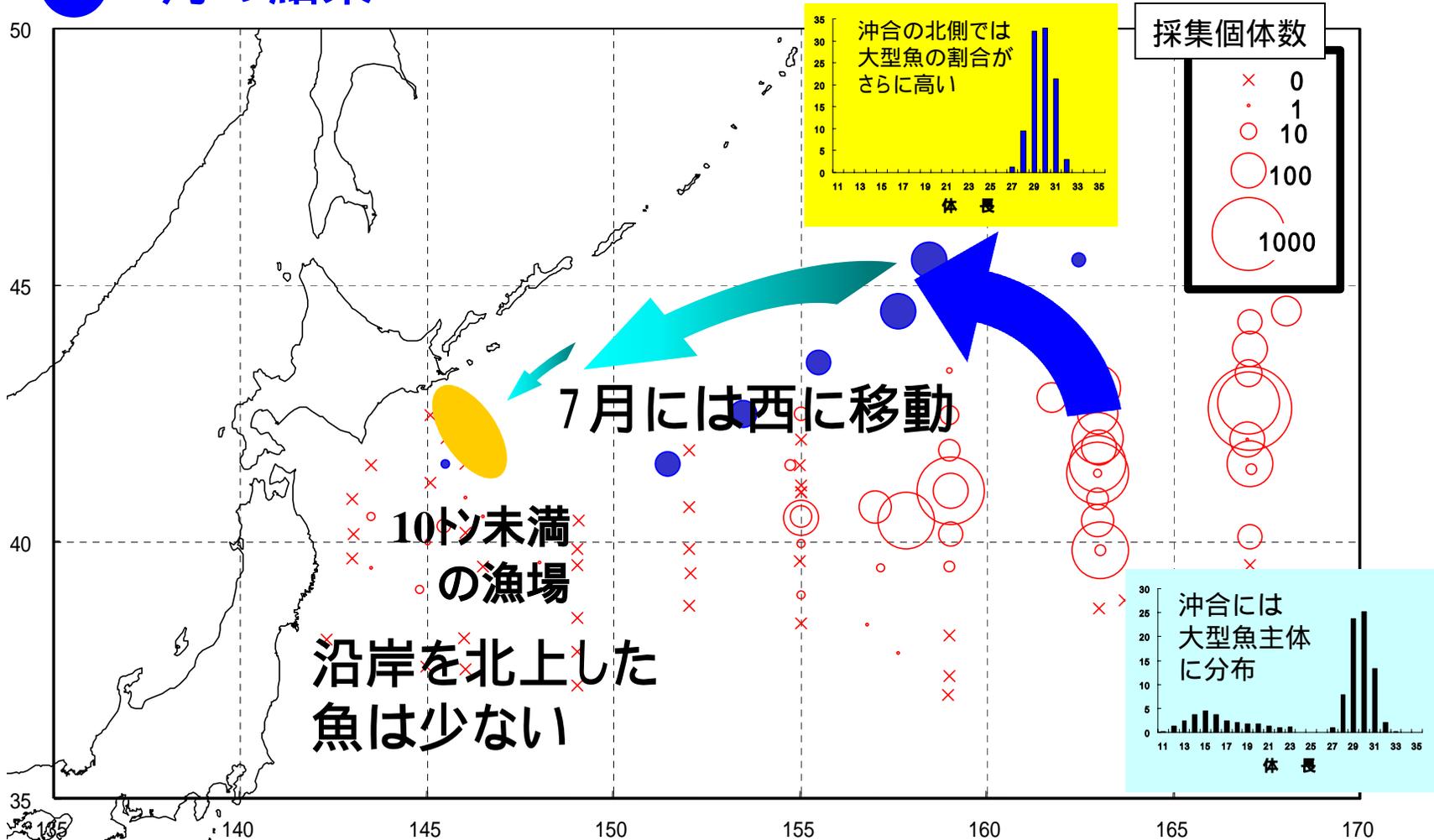
## (3)魚体

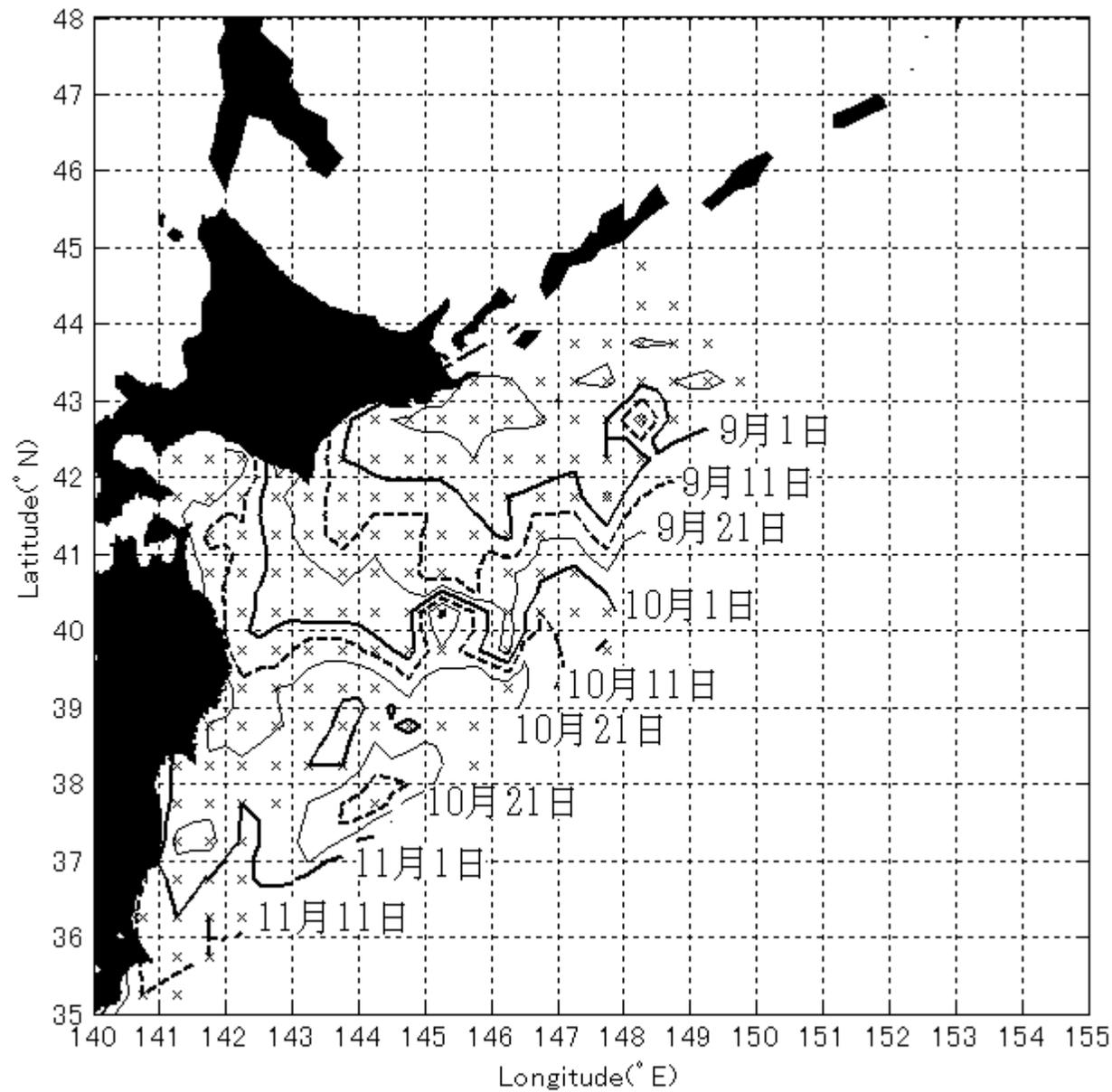
東北区水産研究所の6月の調査および北海道立釧路水産試験場の調査の結果、東経162度以西に分布していた魚群は大型魚の割合が非常に高かった。東北区水産研究所の調査の結果では、大型魚が約65%を占めたが、表面水温13℃を境にそれ以下の調査点ではさらに大型魚の割合が高く約9割を占めた。13℃以上の調査点においても約50%が大型魚であり、33%が20cm以下であった。7月の釧路水産試験場による北辰丸の流し網調査の結果でも同様に大型魚主体で漁獲された。以上のことから、今漁期に漁場に来遊する魚群は大型魚の割合が非常に高く、漁期を通じた漁獲物は大型魚主体になると考えられる。

# 漁期前調査の結果のまとめ

○ 6月の結果

● 7月の結果





**サンマ漁場形成開始日(1993年から2002年の平均値)**  
**漁業情報サービスセンター作成**

# 平成15年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議 東北海区海況予報

平成15年8月6日

独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所

## <<今後の見通し(2003年9～11月)>>

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並～やや南偏(35°30'N～36°30'N)で推移する。
- (2)黒潮系暖水の北限位置は、近海で平年並～やや南寄りに推移する。
- (3)釧路南東沖の暖水塊は持続し、金華山沖の暖水塊は西方へ移動する。
- (4)親潮第1分枝の張り出しは、やや南偏(39°30'N以北)で推移し、常磐近海に冷水域が残る。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並～やや強勢(143°20'E付近まで)で推移する。

## (海況の経過(2003年1月～2003年6月)の特徴)

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並～やや南偏で推移した。
- (2)釧路の南東沖で暖水塊が停滞しており、5月には金華山沖合に暖水塊が認められた\*。
- (3)親潮第1分枝の南限は、3月までは平年並～北偏(42°N～40°N)であったが、4月以降は南偏(39°30'N～38°30'N)で推移した。
- (4)表面水温は2月以降、東北海区以北で平年より低めで推移した。

## (現況(2003年7月)の特徴)

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並である。
- (2)暖水塊が、釧路の南東沖約270km、および金華山の沖合約480kmにある。
- (4)冷水域が、常磐沖に複数と、下北半島沿岸にある。
- (5)親潮第1分枝の張り出しは、やや南偏傾向にある(38°30'N)。
- (6)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並～やや強勢(142°50'E)。

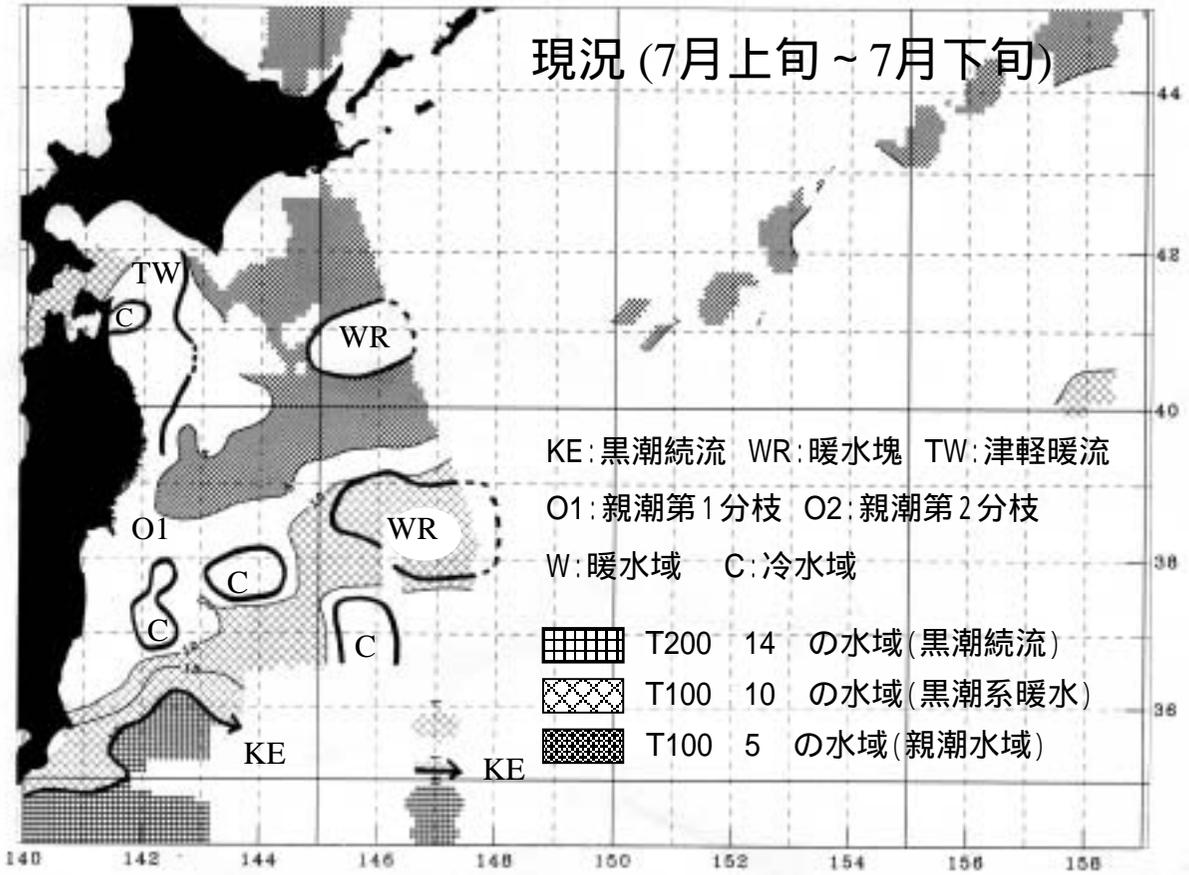
注：現況および今後の見通しは図を参照のこと。

「近海」は146°E以西、「沖合」は146°E以東を表す。

\* 表面水温・人工衛星情報による

SCHEMATIC DATE: 2003/0701 - 2003/0728

現況 (7月上旬～7月下旬)



今後の見通し(9月下旬を想定)

